古い地図ではこの寺からさらに東へ坂を下ったところにモスクがあったが、今ではタミル系のヒンドゥー寺がそびえている。インド人の多い地区の常として、ゴミの回収業が盛んだ。

図 2　カンベ駅前商店街。インド系の店が目立つ。

寺の前をまっすぐ西へ通る「カンベ道路」は、バスや自動車の交通がはげしく、大衆向けの飲食店がならんでいるが、すぐにインヤ湖の東の堤防にぶつかる。湖ができる前は峠越えで、レーダンやカマユッまで続いていたのかもしれない。

この道の東は「ティッサー道路」と改名して 2 キロ半続きンガモーイェイッ・クリークの手前でオカラパ・ミョーウー仏塔（ゼディ）に至る。ミョーウーとは「元町」という意味だろう。その南およそ 2 キロの地点にあるチャイッ・カサン寺は、モン族の建てた由緒ある寺だ。

オカラパ・ミョーウー寺の裏は船着き場で、まるで歌舞伎の「俊寛」の舞台に出てきそうな船が対岸と行き来をしている。片道 100 チャッ。のどかな風景だ。